

歯と口の健康づくりに関する主な指標

項 目	現状値	目標値
	令和4年度	令和11年度
◆ 乳幼児期		
【目標】健全な歯・口腔の育成		
3歳児でむし歯のない者の割合の増加 *1	89.1% (R3実績)	95%
◆ 学齢期（高等学校等を含む。）		
【目標】健全な歯・口腔の育成		
12歳児の一人平均むし歯数（DMF T指数）*2	0.52	0.3本以下
12歳児でむし歯のない者の割合の増加 *2	73.8%	85%
◆ 成人期（妊産婦である期間を含む。）・高齢期		
【目標】むし歯予防による健全な口腔状態・機能の維持・向上		
40歳（35～44歳）の未処置歯を有する者の割合の減少	42.5%	25%
【目標】歯周病予防による健全な口腔状態・機能の維持・向上		
20歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	27.1%	20%
30歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	36.7%	30%
40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	42.7%	35%
50歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	50.2%	45%
60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	56.4%	50%
【目標】生活の質の向上に向けた健全な口腔状態・機能の維持・向上		
50歳以上における咀嚼 ^{そしゃく} 良好者の割合の増加	58.8%	70%
「オーラルフレイル」の言葉や意味を知っている者の増加	10.3%	50%
【目標】歯の喪失の防止		
40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合の減少	18.8%	10%
80歳（75～84歳）で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	57.7%	65%
【目標】歯科健診の受診の機会及び実施体制の整備		
20歳以上で過去1年間に歯科健診を受診した者の割合の増加	66.5%	75%

※京都市を除く。

*1：厚生労働省地域保健・健康増進事業報告から算出

*2：京都府教育庁指導部保健体育課「京都府児童生徒の健康と体力の現状～『学校保健編』～」

現状値：令和4年度京都府民歯科保健実態調査統計値